

エコな移動を
気持ちよく

グリーンスローモビリティ



グリーンスローモビリティは、時速 20km 未満で公道を走ることができる電動車を活用した小さな移動サービスで、その車両も含めた総称です。

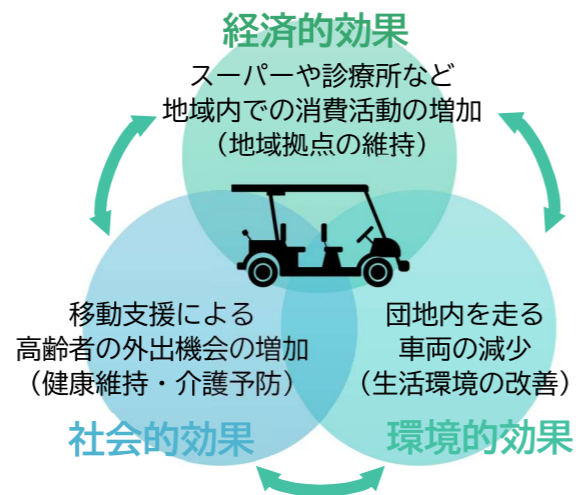
島根県松江市 環境と福祉に やさしい まちづくり



松江市を走るグリーンスローモビリティは、そこに住む人たちが地域社会で再び希望を持って生活できることを願い『Re×hope(リ・ホープ)』と名付けられました。現在の運行エリアは、市の中心市街地から数kmに位置する4つの高台団地（法吉団地、比津が丘団地、うぐいす台団地、淞北台団地）です。人口減により公共交通の維持が難しくなる中、自家用車に代わる高齢者の移動手段として年々利用者は増加しています。

- 《経緯》 2017.10～ 国土交通省「創畜省エネルギー化支援事業」の一環として検討を開始
 2018.9～ 交通エコロジーモビリティ財団の支援を受け、実証運行を開始（3カ月間）
 2019.5～ デマンド型運行により、事業化・本格運行開始
 2019.9 環境省・国土交通省「グリーンスローモビリティ導入促進事業」の採択を受け、2台増車
 2020.4～ 自家用有償旅客運送スタート

車両愛称	Re×hope
導入車両	カート型タイプ（4人乗り）×2台 カート型タイプ（7人乗り）×1台
運行地域	郊外住宅団地
運行目的	生活交通
運行形態	デマンド型 区域運行
運行日時	平日のみ 9:30～14:00
運賃	100円（9:30～12:30は無償運行）
運行主体	社会福祉法人みずうみ エコ×ユニバーサルな松江のまちづくりを考える会



松江市内屈指の高台団地に位置する淞北台団地では、自治会・地域ボランティアや隣の法吉団地にある商店が協力し、空き店舗を活用し、毎週火・木の14時～16時のみ商店「みずうみ Re×hopeストア」を開店しています。社会福祉法人みずうみは「行きは歩いて健康づくり、帰りは荷物が重たいから、みんなで Re×hope (リ・ホープ) に乗りませんか？」を合言葉に、その時刻にあわせグリーンスローモビリティ「Re×hope」による移動支援を行っています。みずうみ Re×hopeストアの売上の5%は、Re×hopeの運行資金に充てられています。



▲ みずうみ Re×hope ストア
(島根県松江市淞北台団地)

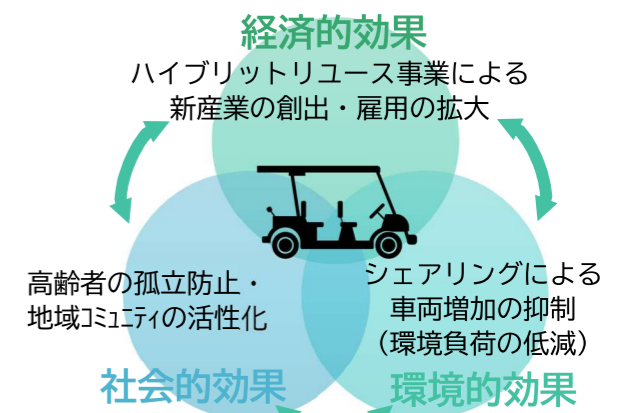
宮城県石巻市 コミュニティ カーシェアリング による可能性



石巻市は、東日本大震災の防災集団移転地として整備されたのぞみ野地区でグリーンスローモビリティを導入し、地域コミュニティの再生に取り組んでいます。導入車両は、使われなくなったハイブリッド自動車から部品を回収し地元企業がリユースして製品化しています。

運営は、一般社団法人日本カーシェアリング協会のサポートにより「コミュニティカーシェアリング」の仕組みを取り入れ、乗り合い利用を基本としつつ、運転が難しい方はボランティアドライバーによる運行代行を依頼する形態をとっています。住民組織が運行を担うことで、高齢者の孤立防止や地域コミュニティの活性化にも大きく貢献しています。

車両愛称	—
導入車両	カート型タイプ（5人乗り）×1台
導入地域	防災集団移転団地
導入目的	生活交通支援とコミュニティの活性化
運営形態	カーシェアリング (運転ができない場合は運転代行)
運行日時	—
運賃	事前登録制 無償
運営主体	のぞみ野カーシェア会



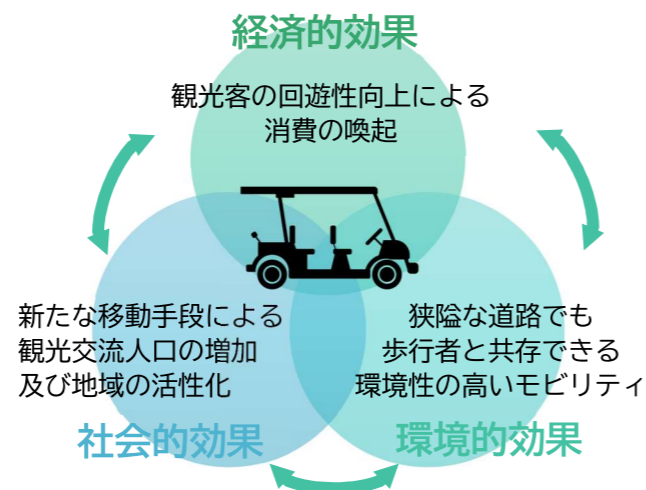


島根県大田市 世界遺産を 守り、楽しむ

世界遺産石見銀山遺跡は採掘当時から適切な森林管理によって環境負荷の少ない開発がなされ、今日に至るまで銀山一帯に豊かな森林環境が残っています。その環境を守るため、出発地点の大森代官所跡から公開されている坑道「龍源寺間歩」まで続く3.5kmの緩やかな上り坂は、一般車両の通行が規制されています。

そこに「ぎんざんカート」と名付けられたグリーンスローモビリティが導入され、長距離を歩くのが難しい高齢者や子連れ客の観光をサポートしています。扉も窓もないというグリーンスローモビリティの特徴は世界遺産の豊かな環境を楽しむのにふさわしく、観光客の人気を集めています。

車両愛称	ぎんざんカート
導入車両	カート型タイプ（7人乗り）×2台
運行地域	観光地
運行目的	観光振興、生活交通
運行形態	定時定路線型運行（12～14便/日）
運行日時	水曜日、1月1日除く毎日運行
運賃	100円～500円
運行主体	島根県大田市・レンタサイクル河村



- 《経緯》
- 2008.9 来訪客の増加により、住民以外の自家用車や観光バスの進入自主規制を導入
 - 2018.7～ 国土交通省「道路に関する新たな取り組みの現地実証実験」の支援を受け、グリーンスローモビリティとミニバンを用いた運行実験(比較)を実施
 - 2019.12～ 環境省・国土交通省「IoT技術等を活用したグリーンスローモビリティの効果的導入実証事業」の支援を受け実証運行を開始(約2年間で約25,800人が乗車)
 - 2022.4～ 自家用有償旅客運送による本格運行スタート

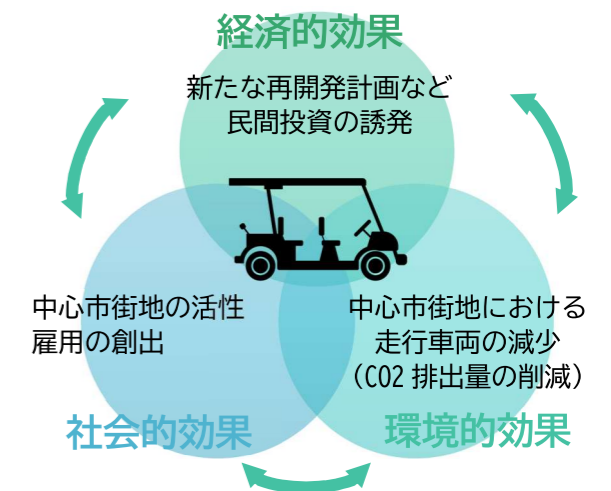


宮崎県宮崎市 サステイナブルなまちづくりに貢献

宮崎市では、郊外への大型商業施設の進出を機に求心力が一気に停滞した市街地において、宮崎駅西口再開発計画にあわせ、新たに生まれる賑わいを駅から街中に波及させるような回遊性の向上を目指し、2台のグリーンスローモビリティを導入しました。『ぐるっぴー』と名付けられたグリーンスローモビリティは、地元の名物である日向夏（オレンジ色）とマンゴー（黄色）をイメージしたカラーリングが施され、街のシンボルとして子供から大人まで人気を集めています。

西日本で初めてとなるグリーンスローモビリティ定時定路線の本格運行を開始したことに加え、低年齢層の乗車を促す取組を通じて地域における環境教育を推進するなど積極的な取組が評価され、2022年12月には「宮崎市まちなかグリスロ運行協議会」が「国土交通大臣表彰（令和4年交通関係環境保全優良事業者等大臣表彰）」を受賞しました。

車両愛称	ぐるっぴー
導入車両	バス型タイプ（10人乗り）×2台
運行地域	中心市街地（商店街）
運行目的	生活交通
運行形態	定時定路線型運行（計34便/日）
運行日時	毎日運行 10:30～17:30
運賃	100円(小学生以下は無料)
運行主体	宮崎交通株式会社
運営団体	宮崎市まちなかグリスロ運行協議会



- 《経緯》
- 2019.11～ 国土交通省「地域特性に応じたグリーンスローモビリティの活用検討調査業務」の支援を受け実証運行を開始(17日間で約5,900人が乗車)
 - 2020.11～ “アミュプラザ宮崎”の開業にあわせ一般乗合旅客自動車運送事業をスタート
 - 2021.5 コロナ感染拡大等に伴う利用者低迷を受け、運営団体「宮崎市まちなかグリスロ運行協議会」の事務局を商店街振興組合連合会から宮崎市商業政策課へ移行
 - 2022.12～ 国土交通大臣表彰（令和4年交通関係環境保全優良事業者等大臣表彰）を受賞